

鋁工業指数参考図表集
(2026 年 3 月 速 報)

2026 年 4 月 30 日

經濟解析室

URL : <https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result-1.html>

2026年3月の鉱工業指数(速報)各指数の状況

生産・出荷・在庫・在庫率指数

月次	生産	出荷	在庫	在庫率
季調済指数	101.9	99.5	96.6	102.8
前月比	-0.5%	-1.1%	-1.5%	-0.4%
指数水準	2025.12 100.2以来 ①2020.5 87.6 ②2020.6 89.4 ③2020.4 95.2	2025.12 98.4以来 ①2020.5 87.2 ②2020.6 90.7 ③2020.4 93.7	2021.8 95.5以来 ①2021.2 93.8 ②2021.5 93.9 ③2021.3,4 94.0	2026.1 101.2以来 ①2018.2 84.6 ②2018.4 84.8 ③2018.6 84.9
前月比の動き	2か月連続－ (2026.2～当月)	2か月連続－ (2026.2～当月)	2か月ぶり－ (2026.1以来)	2か月ぶり－ (2026.1以来)
前月比幅	2026.2 -2.0%以来 ①2020.4 -10.0% ②2020.5 -8.0% ③2024.1 -7.0%	2026.2 -1.5%以来 ①2020.4 -10.9% ②2024.1 -7.6% ③2020.5 -6.9%	2025.11 -1.9%以来 ①2022.4 -3.5% ②2020.6 -2.6% ③2020.9 -2.3%	2026.1 -4.6%以来 ①2020.7 -8.2% ②2020.2,9 -6.6% ③2020.6 -6.4%
前年同月比(原指数)	2.3%(112.5)	2.0%(111.4)	-4.9%(94.1)	-5.3%(92.2)
前年同月比の動き	4か月連続＋ (2025.12～当月)	2か月ぶり＋ (2026.1以来)	14か月連続－ (2025.2～当月)	7か月連続－ (2025.9～当月)
前年同月比幅	2025.6 3.4%以来 I 2021.6 21.8% II 2021.5 19.3% III 2021.4 14.3%	2025.6 2.9%以来 I 2021.5 20.8% II 2021.6 18.6% III 2021.4 15.8%	2021.5 -8.8%以来 ①2021.1 -10.0% ②2021.4 -9.9% ③2021.3 -9.7%	2021.8 -11.4%以来 ①2021.5 -26.5% ②2021.4,6 -21.4% ③2021.7 -13.5%

1) I～Ⅲは2020年基準における最大値から上位3位まで、①～③は最小値から下位3位までの数値

1) I～Ⅲは2020年基準における最大値から上位3位まで、①～③は最小値から下位3位までの数値

2026年3月の鉱工業生産の基調判断

「生産は一進一退」

基調判断の推移

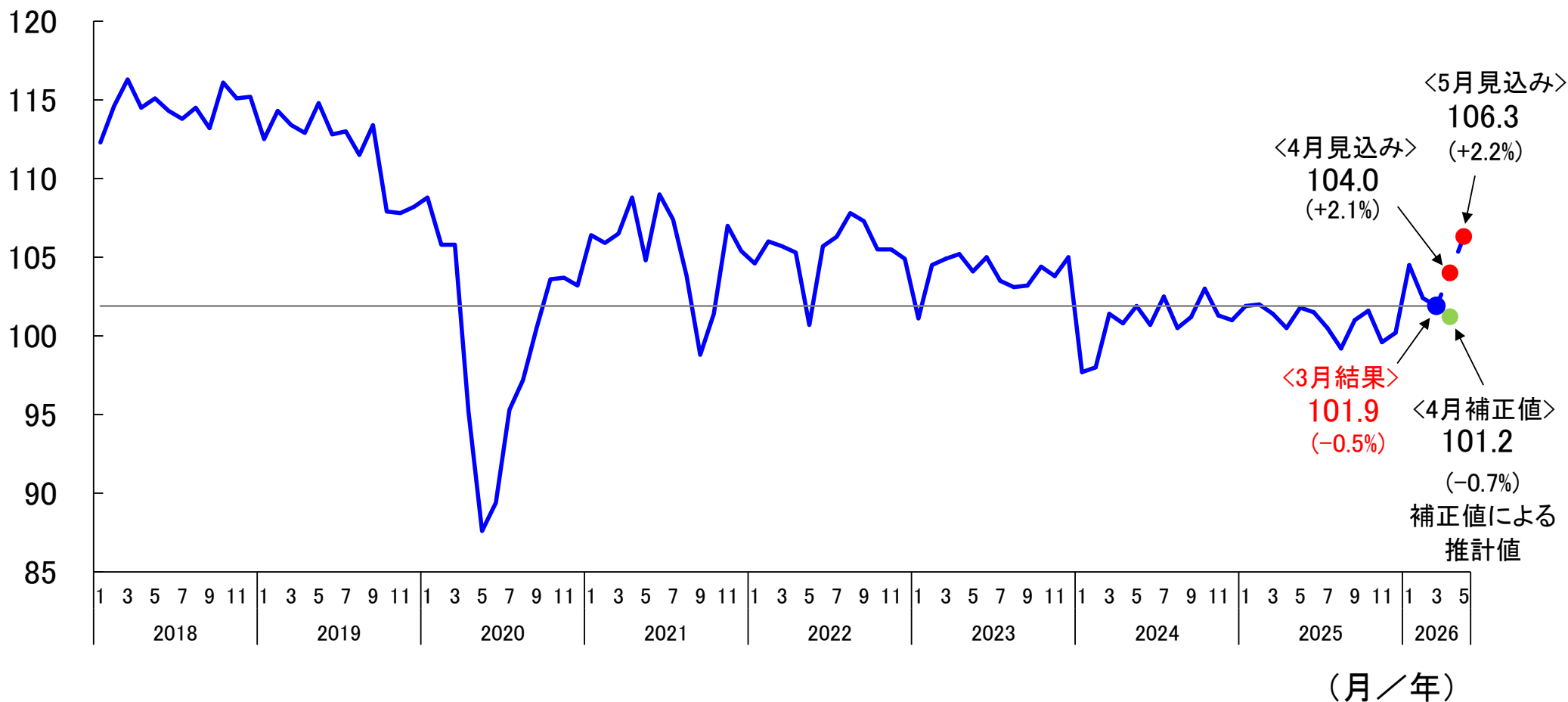
2020年6月	(↑)	「生産は下げ止まり、持ち直しの動き」
2020年7月	(→)	「生産は持ち直しの動き」
2020年8月～2021年7月	(↑)	「生産は持ち直している」
2021年8月～10月	(↓)	「生産は足踏みをしている」
2021年11月～2022年3月	(↑)	「生産は持ち直しの動きがみられる」
2022年4月	(↓)	「生産は足踏みをしている」
2022年5月	(↓)	「生産は弱含み」
2022年6月～7月	(↑)	「生産は一進一退」
2022年8月～9月	(↑)	「生産は緩やかな持ち直しの動き」
2022年10月	(↓)	「生産は緩やかに持ち直しているものの、一部に弱さがみられる」
2022年11月～2023年2月	(↓)	「生産は弱含み」
2023年3月～6月	(↑)	「生産は緩やかな持ち直しの動き」
2023年7月～12月	(↓)	「生産は一進一退」
2024年1月～6月	(↓)	「生産は一進一退ながら弱含み」
2024年7月～	(↑)	「生産は一進一退」

(注) 「↑」前回の基調判断から上方修正、「↓」前回の基調判断から下方修正、「→」表現変更

鋳工業生産指数の動向と先行き

・ 2026年3月の鋳工業生産指数は、101.9(前月比-0.5%)と2か月連続の低下。

(2020年=100、季節調整済)



(注) 鋳工業指数(IIP)とは、月々の鋳工業の生産、出荷、在庫等を基準年(現在は、2020年)の12か月平均=100として指数化したもので、事業所の生産活動、製品の需給動向など鋳工業全体の動きを示す代表的な指標
 (注) 補正値は、製造工業生産予測指数がもつ傾向的な部分を修正し、実際の鋳工業指数の動きをより適切に把握できるように試算したもの
 (注) 見込みの前月比は、製造工業生産予測指数の前月比を記載している

2026年3月の鉱工業生産指数を大きく動かした品目(業種別)

・ 2026年3月の鉱工業生産指数は、101.9(前月比-0.5%)と2か月連続の低下。

		業種・品目名	前月比	寄与度
【低下方向に寄与】 鉱工業生産を低下方向へ 引っ張った3業種の中で 低下への影響度が大きい 2品目	1位の業種	無機・有機化学工業	-8.6%	-0.35%pt
	品目	ポリエチレン	-29.8%	-0.07%pt
		合成ゴム	-13.8%	-0.05%pt
	2位の業種	汎用・業務用機械工業	-4.3%	-0.33%pt
	品目	コンベヤ	-65.5%	-0.46%pt
		水管ボイラ	-46.5%	-0.05%pt
【上昇方向に寄与】 鉱工業生産を上昇方向へ 引っ張った3業種の中で 上昇への影響度が大きい 2品目	3位の業種	石油・石炭製品工業	-7.7%	-0.13%pt
	品目	ガソリン	-7.3%	-0.05%pt
		軽油	-14.3%	-0.05%pt
	1位の業種	輸送機械工業(除.自動車工業)	10.5%	0.29%pt
	品目	航空機用発動機部品	5.5%	0.07%pt
		船用ディーゼル機関	28.9%	0.06%pt
【上昇方向に寄与】 鉱工業生産を上昇方向へ 引っ張った3業種の中で 上昇への影響度が大きい 2品目	2位の業種	生産用機械工業	1.3%	0.12%pt
	品目	半導体製造装置	12.3%	0.41%pt
		機械プレス	64.4%	0.07%pt
	3位の業種	電子部品・デバイス工業	1.7%	0.10%pt
品目	電子回路基板	7.3%	0.05%pt	
	混成IC	4.7%	0.02%pt	

※秘匿の関係で寄与度を表記できない品目を除いた中で、影響度の大きい品目を記載している。

寄与度： 生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い。

季節調整の関係で、上昇業種と低下業種の合計は、全体の動きと一致しないことがある。

2026年3月の鉱工業生産指数を大きく動かした品目(全体・財別)

<全体>

		品目名	前月比	寄与度
鉱工業生産を 低下方向に 引っ張った3品目	1位	コンベヤ	-65.5%	-0.46%pt
	2位	普通乗用車	-3.8%	-0.22%pt
	3位	フラットパネル・ディスプレイ製造装置	-86.2%	-0.18%pt
鉱工業生産を 上昇方向に 引っ張った3品目	1位	半導体製造装置	12.3%	0.41%pt
	2位	リチウムイオン蓄電池	34.8%	0.29%pt
	3位	ボイラ部品	206.3%	0.13%pt

※秘匿の関係で寄与度を表記できない品目を除いた中で、影響度の大きい品目を記載している。

<財別＝用途別>

	解説	品目名	前月比	寄与度
資本財 (除. 輸送機械)	クレーンや金属工作機械など 設備投資に向けられる製品	資本財(除. 輸送機械)	-3.6%	-0.57%pt
		コンベヤ	-65.5%	-0.46%pt
		フラットパネル・ディスプレイ製造装置	-86.2%	-0.18%pt
非耐久消費財	食料品や衣料品など 家計で購入される製品	非耐久消費財	-0.9%	-0.17%pt
		仕上用化粧品	-11.3%	-0.05%pt
		ガソリン	-7.3%	-0.03%pt
耐久消費財	テレビや電気冷蔵庫など 家計で購入される製品	耐久消費財	-1.5%	-0.11%pt
		普通乗用車	-3.8%	-0.15%pt
		時計	-28.4%	-0.03%pt
建設財	鉄骨やセメントなど 建設投資に向けられる製品	建設財	-0.4%	-0.02%pt
		鉄骨・軽量鉄骨	-9.2%	-0.03%pt
		自然冷媒ヒートポンプ式給湯機	-13.1%	-0.01%pt
生産財	原材料として投入される製品	生産財	1.1%	0.52%pt
		リチウムイオン蓄電池	34.8%	0.29%pt
		ボイラ部品	206.3%	0.13%pt

※秘匿の関係で寄与度を表記できない品目を除いた中で、影響度の大きい品目を記載している。

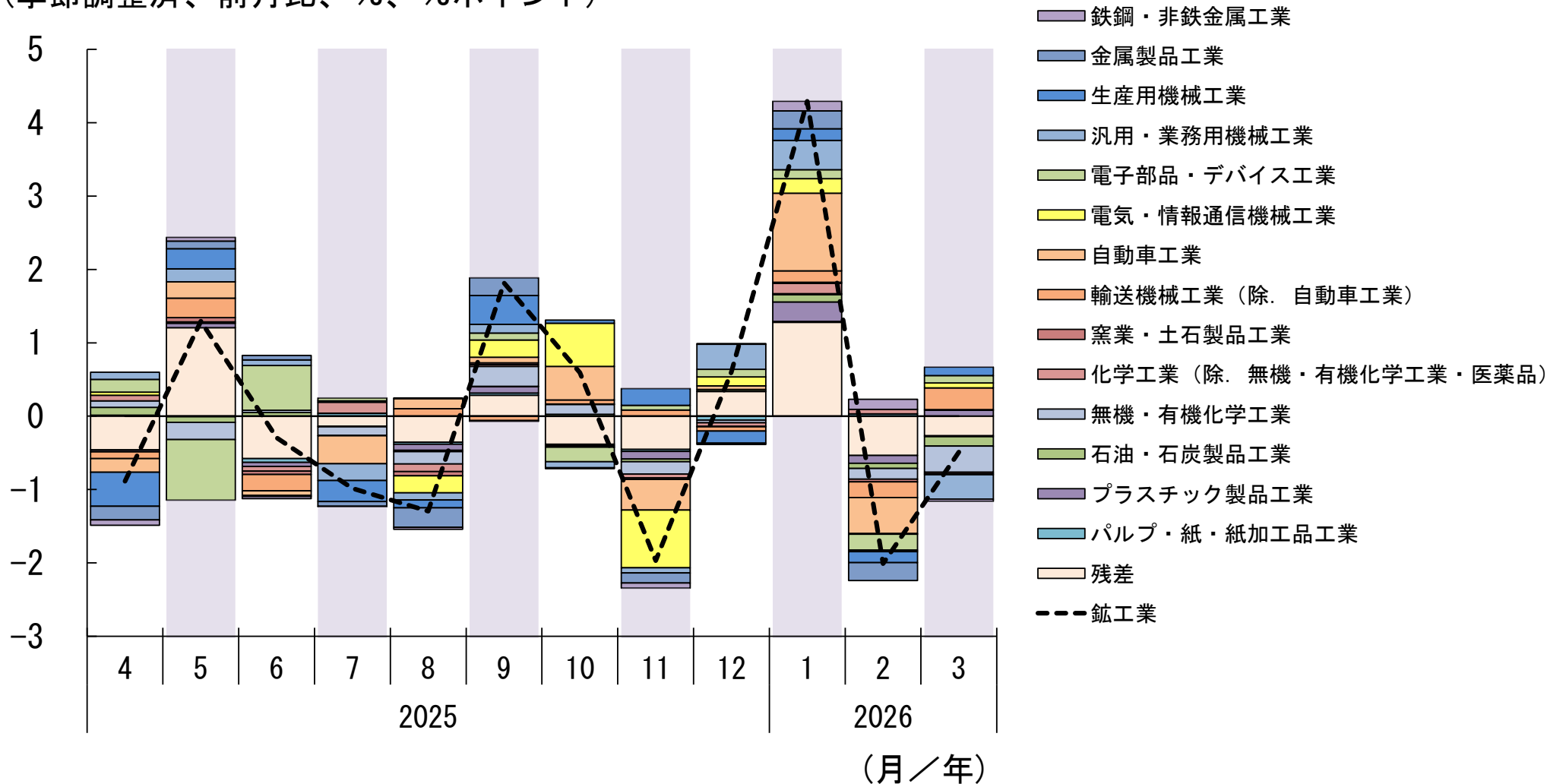
寄与度： 生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い。

季節調整の関係で、上昇業種と低下業種の合計は、全体の動きと一致しないことがある。

鋳工業生産前月比 業種別の影響度合い

・2026年3月の生産指数は、輸送機械工業（除. 自動車工業）などが上昇したものの、無機・有機化学工業などが低下したため、前月比-0.5%と低下。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)

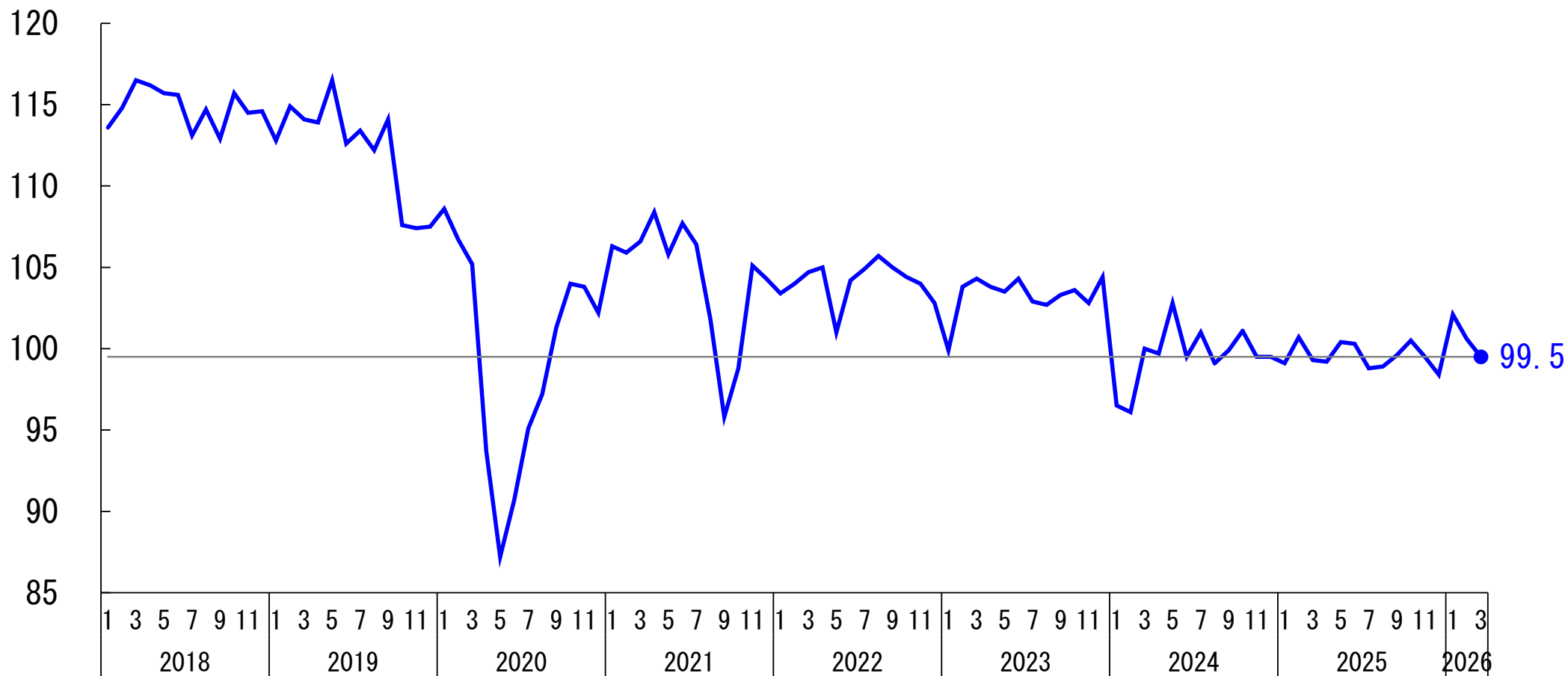


(注) 「残差」は、鋳工業生産全体の変動から主要14業種の影響度を差し引いたものである。

鉍工業出荷指数の動向

・ 2026年3月の鉍工業出荷指数は、99.5(前月比-1.1%)と2か月連続の低下。

(2020年=100、季節調整済)



(月/年)

2026年3月の鉱工業出荷指数を大きく動かした品目(業種別)

・ 2026年3月の鉱工業出荷指数は、99.5(前月比-1.1%)と2か月連続の低下。

		業種・品目名	前月比	寄与度
【低下方向に寄与】 鉱工業出荷を低下方向へ引っ張った3業種の中で低下への影響度が大きい2品目	1位の業種	自動車工業	-3.6%	-0.64%pt
	品目	普通乗用車	-9.3%	-0.74%pt
		普通トラック	-7.8%	-0.10%pt
	2位の業種	石油・石炭製品工業	-5.4%	-0.25%pt
	品目	軽油	-10.8%	-0.10%pt
		ガソリン	-4.1%	-0.08%pt
3位の業種	無機・有機化学工業	-4.0%	-0.17%pt	
品目	エチレン	-22.2%	-0.07%pt	
	フェノール	-47.1%	-0.03%pt	
【上昇方向に寄与】 鉱工業出荷を上昇方向へ引っ張った3業種の中で上昇への影響度が大きい2品目	1位の業種	鉄鋼・非鉄金属工業	1.1%	0.09%pt
	品目	電気銅	11.9%	0.07%pt
		電気金	17.0%	0.05%pt
	2位の業種	電子部品・デバイス工業	1.3%	0.07%pt
	品目	混成 I C	15.8%	0.04%pt
		電子回路基板	7.3%	0.03%pt
3位の業種	プラスチック製品工業	1.5%	0.06%pt	
品目	プラスチック製機械器具部品	1.6%	0.02%pt	
	プラスチック製フィルム・シート	1.4%	0.02%pt	

※秘匿の関係で寄与度を表記できない品目を除いた中で、影響度の大きい品目を記載している。

寄与度： 生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い。

季節調整の関係で、上昇業種と低下業種の合計は、全体の動きと一致しないことがある。

2026年3月の鉱工業出荷指数を大きく動かした品目(財別)

	解説	品目名	前月比	寄与度
耐久消費財	テレビや電気冷蔵庫など 家計で購入される製品	耐久消費財	-4.4%	-0.44%pt
		普通乗用車	-9.3%	-0.52%pt
		セパレート形エアコン	-3.9%	-0.03%pt
非耐久消費財	食料品や衣料品など 家計で購入される製品	非耐久消費財	-2.4%	-0.42%pt
		仕上用化粧品	-16.2%	-0.05%pt
		ガソリン	-4.1%	-0.05%pt
資本財 (除. 輸送機械)	クレーンや金属工作機械など 設備投資に向けられる製品	資本財 (除. 輸送機械)	-1.4%	-0.18%pt
		コンベヤ	-62.3%	-0.32%pt
		フラットパネル・ディスプレイ製造装置	-89.3%	-0.20%pt
建設財	鉄骨やセメントなど 建設投資に向けられる製品	建設財	0.2%	0.01%pt
		エレベータ	11.3%	0.03%pt
		電気照明器具 (除. 自動車用)	6.7%	0.02%pt
生産財	原材料として投入される製品	生産財	1.1%	0.55%pt
		ボイラ部品	204.6%	0.13%pt
		リチウムイオン蓄電池	9.6%	0.10%pt

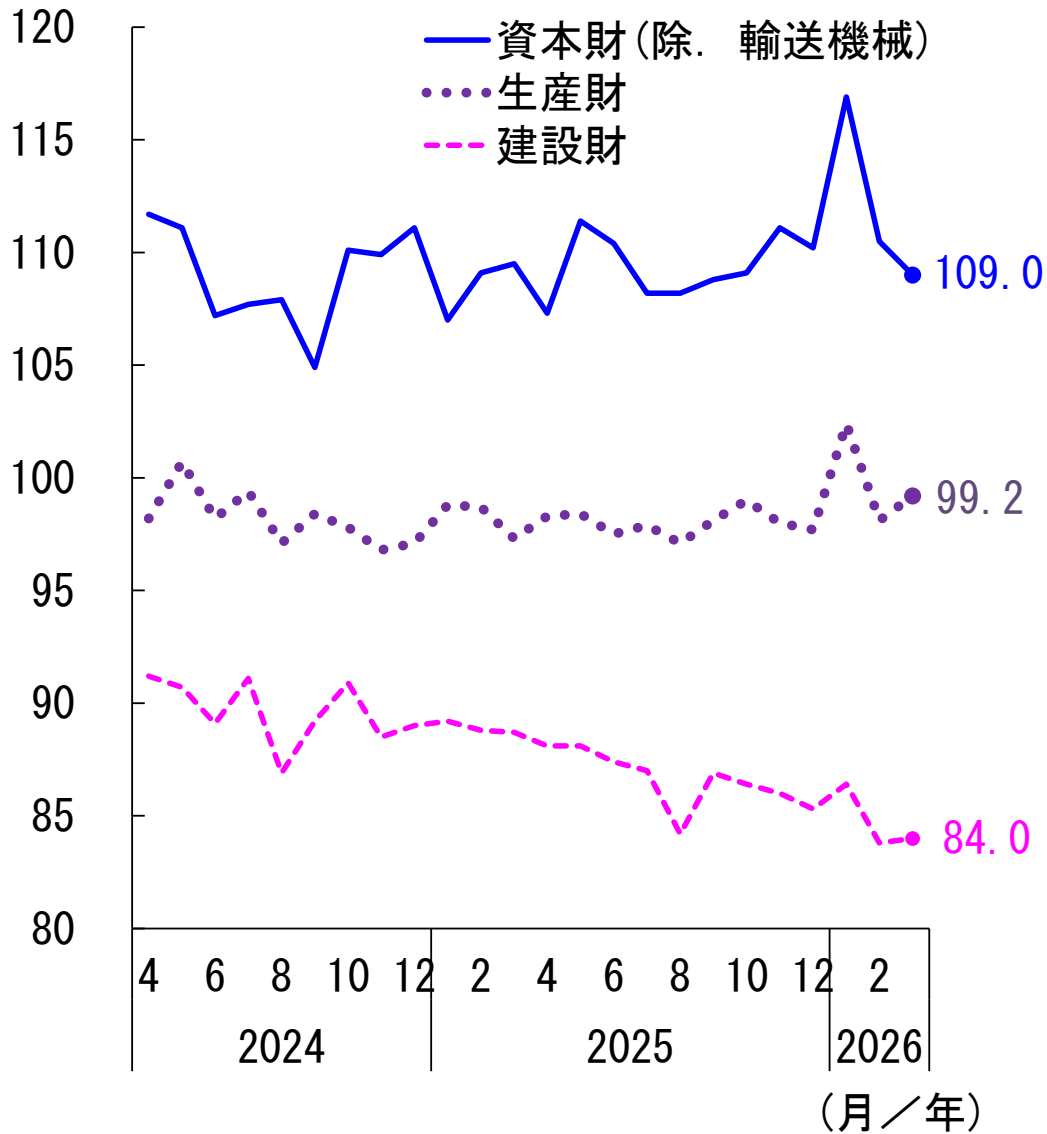
※秘匿の関係で寄与度を表記できない品目を除いた中で、影響度の大きい品目を記載している。

寄与度： 生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い。

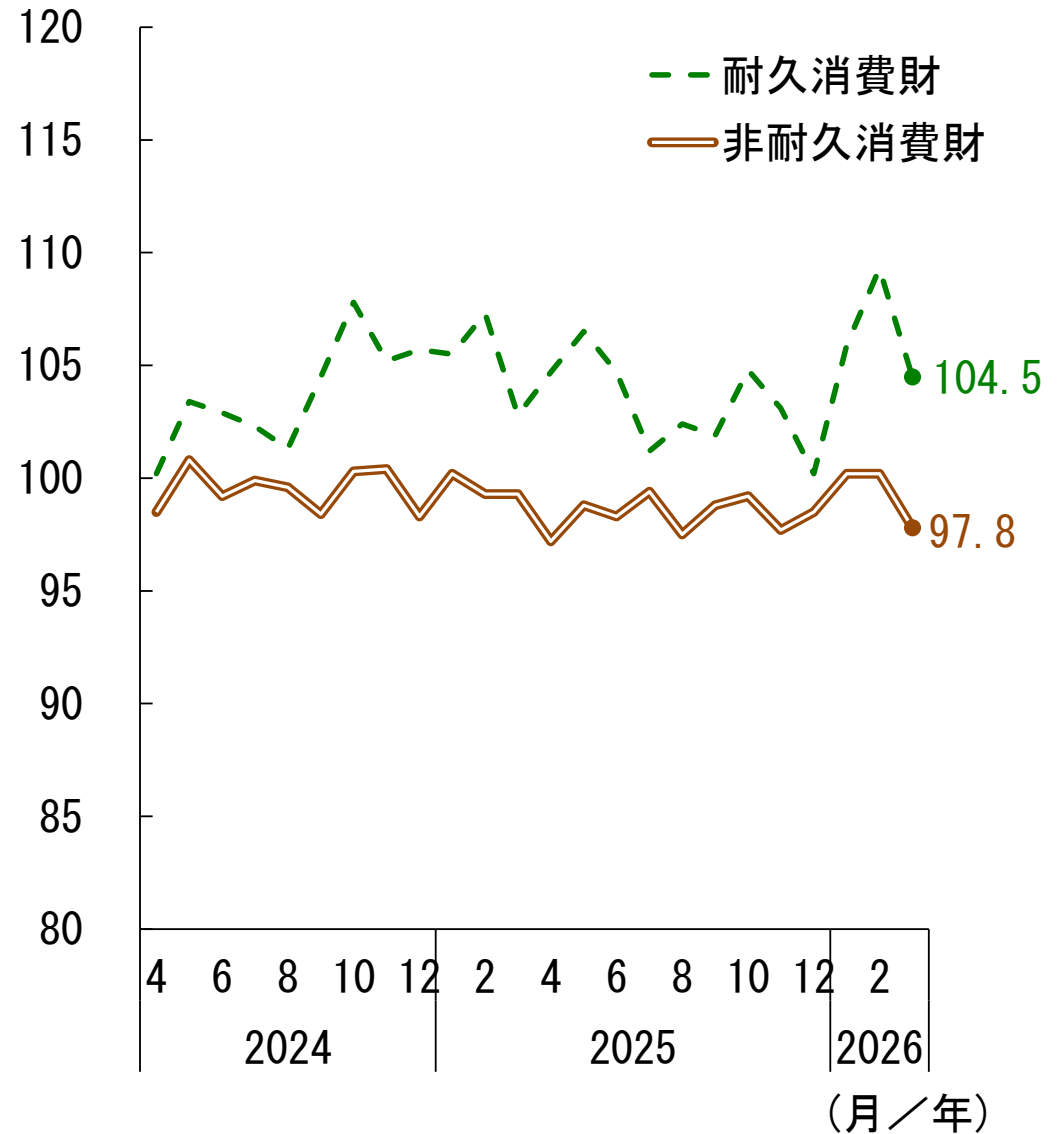
季節調整の関係で、上昇業種と低下業種の合計は、全体の動きと一致しないことがある。

財別出荷指数の動向

(2020年=100、季節調整済)



(2020年=100、季節調整済)



2026年3月の鉱工業在庫指数を大きく動かした品目（業種別）

・ 2026年3月の鉱工業在庫指数は、96.6（前月比-1.5%）と2か月ぶりの低下。

		業種・品目名	前月比	寄与度
【低下方向に寄与】 鉱工業在庫を低下方向へ 引っ張った3業種の中で 低下への影響度が大きい 2品目	1位の業種	電気・情報通信機械工業	-8.4%	-0.67%pt
	品目	ノート型パソコン	-76.5%	-0.69%pt
		電気冷蔵庫	-6.2%	-0.02%pt
	2位の業種	無機・有機化学工業	-4.2%	-0.47%pt
	品目	ポリエチレン	-12.2%	-0.16%pt
		ポリプロピレン	-6.9%	-0.08%pt
3位の業種	生産用機械工業	-4.0%	-0.32%pt	
品目	シヨベル系掘削機械	-9.0%	-0.15%pt	
	旋盤	-9.0%	-0.08%pt	
【上昇方向に寄与】 鉱工業在庫を上昇方向へ 引っ張った3業種の中で 上昇への影響度が大きい 2品目	1位の業種	自動車工業	9.6%	0.66%pt
	品目	普通乗用車	18.0%	0.61%pt
		普通トラック	5.2%	0.08%pt
	2位の業種	電子部品・デバイス工業	4.0%	0.15%pt
	品目	トランジスタ	5.2%	0.04%pt
		モス型IC（メモリ）	5.8%	0.02%pt
3位の業種	汎用・業務用機械工業	0.5%	0.04%pt	
品目	分析機器	3.9%	0.04%pt	
	複写機	10.0%	0.04%pt	

※秘匿の関係で寄与度を表記できない品目を除いた中で、影響度の大きい品目を記載している。

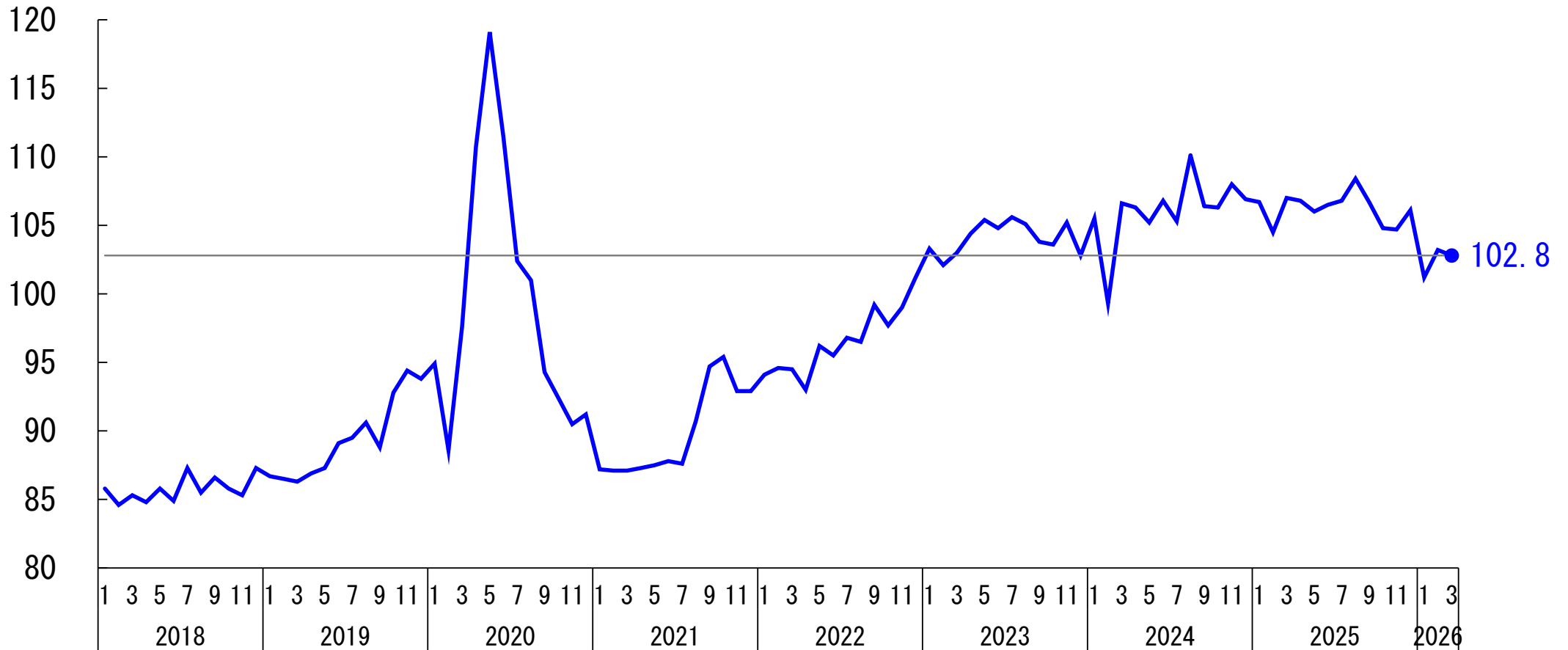
寄与度： 生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い。

季節調整の関係で、上昇業種と低下業種の合計は、全体の動きと一致しないことがある。

鋳工業在庫率指数の動向

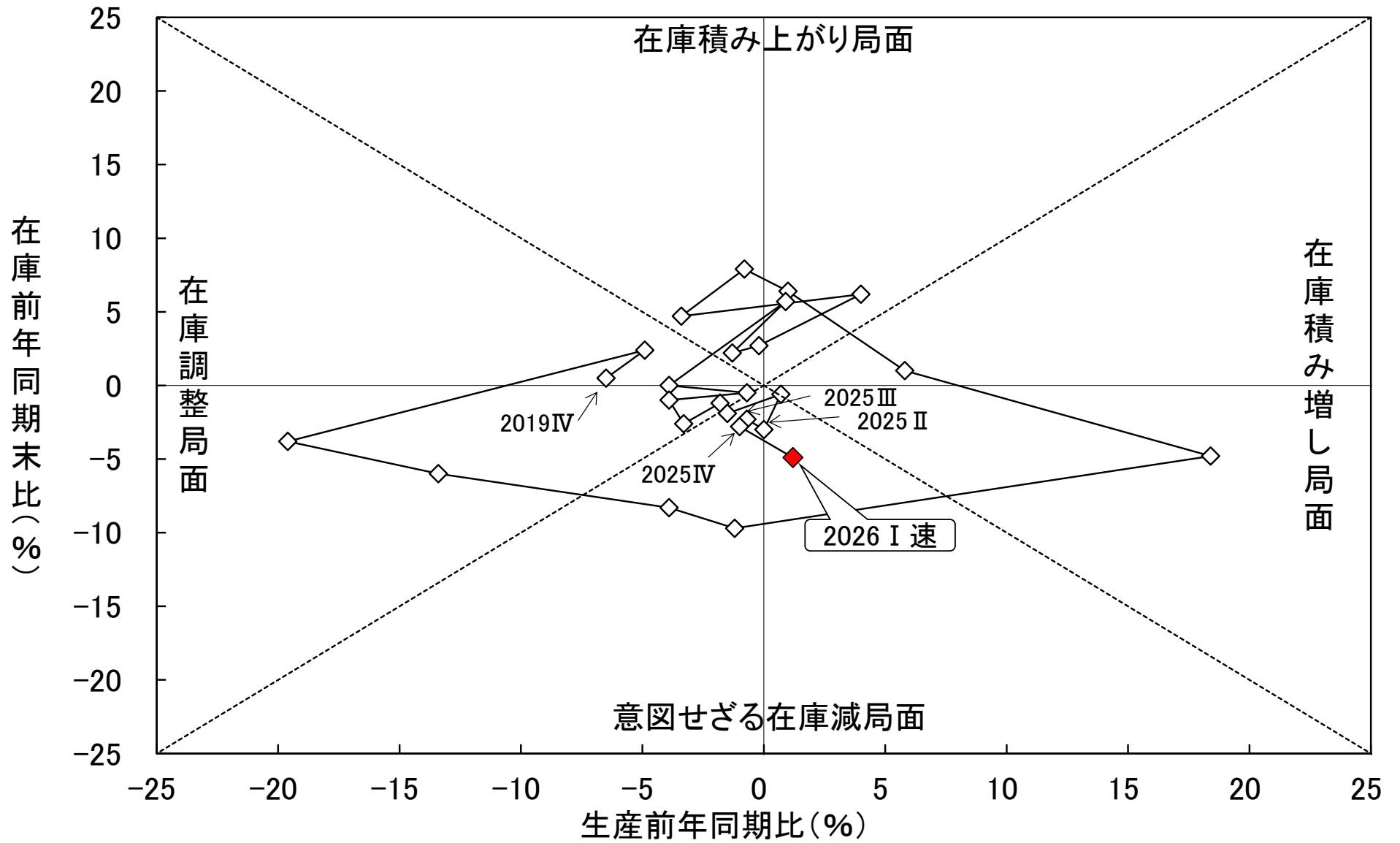
・ 2026年3月の鋳工業在庫率指数は、102.8(前月比-0.4%)と2か月ぶりの低下。

(2020年=100、季節調整済)



(月／年)

鋳工業の在庫循環図



製造工業生産予測指数 時系列

<製造工業>

2020年 = 100

年 月	季節調整済指数			前月比 (%)			実現率 (%)	予測修正率 (%)	
	前月実績	当月見込み	翌月見込み	前月実績	当月見込み	翌月見込み			
2025年	2月調査	105.2	107.3	105.5	1.5	2.0	▲ 1.7	▲ 3.2	0.3
	3月調査	105.0	106.2	106.9	▲ 0.2	1.1	0.7	▲ 2.1	0.7
	4月調査	104.2	106.3	109.4	▲ 0.8	2.0	2.9	▲ 1.9	▲ 0.6
	5月調査	102.8	110.9	107.7	▲ 1.3	7.9	▲ 2.9	▲ 3.3	1.4
	6月調査	104.7	105.7	105.7	1.8	1.0	0.0	▲ 5.6	▲ 1.9
	7月調査	103.6	105.5	107.4	▲ 1.1	1.8	1.8	▲ 2.0	▲ 0.2
	8月調査	102.9	106.6	105.0	▲ 0.7	3.6	▲ 1.5	▲ 2.5	▲ 0.7
	9月調査	102.4	105.3	105.9	▲ 0.5	2.8	0.6	▲ 3.9	0.3
	10月調査	104.2	106.3	107.4	1.8	2.0	1.0	▲ 1.0	0.4
	11月調査	104.2	105.3	102.5	0.0	1.1	▲ 2.7	▲ 2.0	▲ 2.0
	12月調査	102.5	102.8	110.9	▲ 1.6	0.3	7.9	▲ 2.7	0.3
	2026年	1月調査	103.3	112.9	107.3	0.8	9.3	▲ 5.0	0.5
2月調査		110.0	108.3	106.1	6.5	▲ 1.5	▲ 2.0	▲ 2.6	0.9
3月調査		106.9	111.0	114.7	▲ 2.8	3.8	3.3	▲ 1.3	4.6
4月調査		109.5	111.8	114.3	2.4	2.1	2.2	▲ 1.4	▲ 2.5

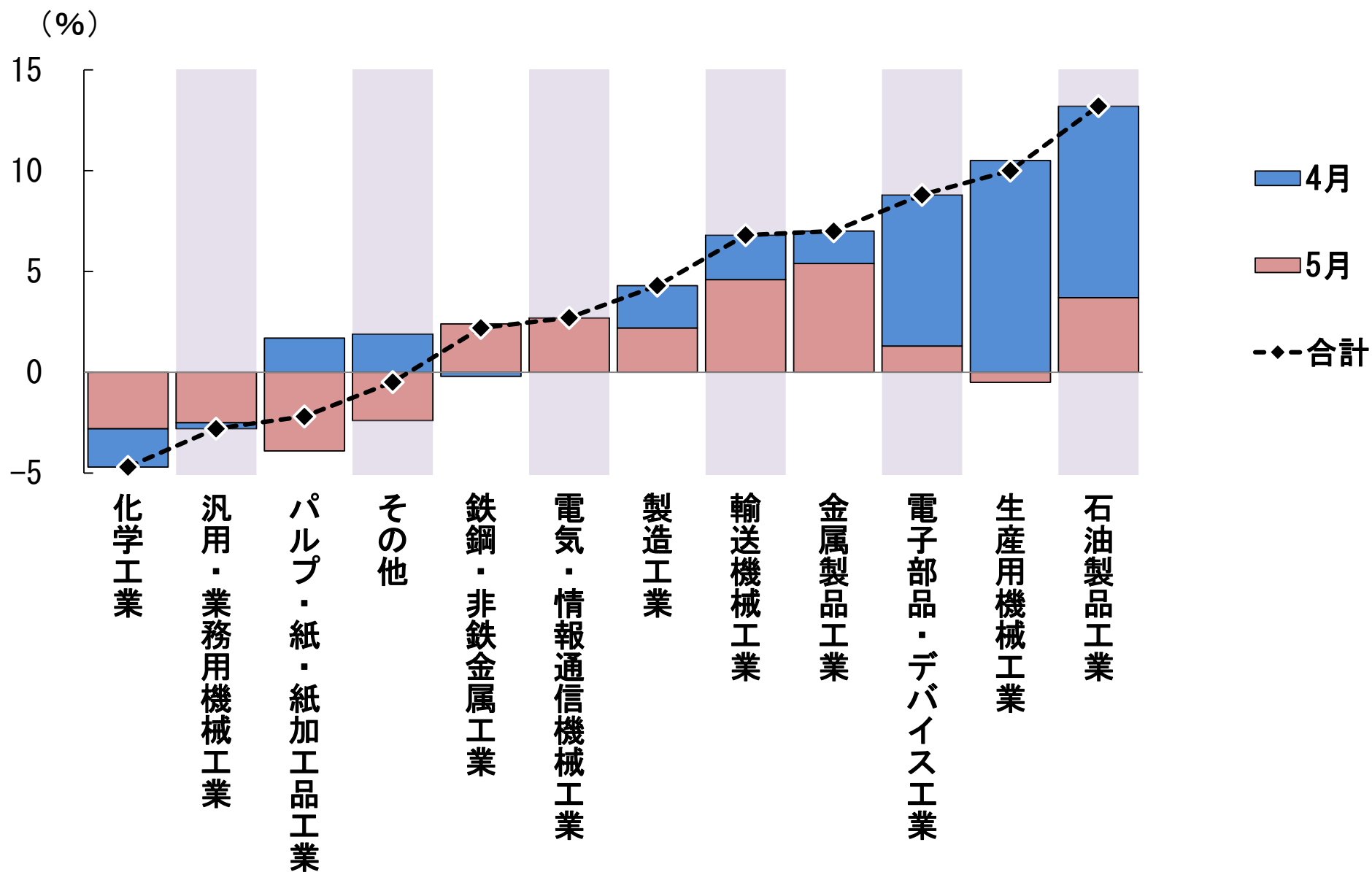
製造工業生産予測指数（当月、翌月の生産伸び率）

	3月調査 (前回)		4月調査 (今回)	4月調査 補正值
4月見込み	3.3 %	⇒	2.1 %	-0.7 % (-2.2%~0.7%)
5月見込み	—		2.2 %	—

(参考) 前回調査の結果

	3月予測調査	3月補正值	実際の結果 鉱工業生産指数
3月前月比	3.8 %	3.8 % (3.1%~4.5%)	-0.5 %

2か月の生産予測伸び率（製造工業生産予測指数）



2026年4月生産計画の寄与順位表

上昇寄与業種		低下寄与業種		横ばいの業種	
業種名	計画前月比	業種名	計画前月比	業種名	計画前月比
生産用機械工業	10.5%	化学工業	-1.9%	電気・情報通信機械工業	0.0%
電子部品・デバイス工業	7.5%	汎用・業務用機械工業	-0.3%		
輸送機械工業	2.2%	鉄鋼・非鉄金属工業	-0.2%		
石油製品工業	9.5%				
その他	1.9%				
金属製品工業	1.6%				
パルプ・紙・紙加工品工業	1.7%				

(注) 業種の並びは、寄与（影響度）が大きい順。

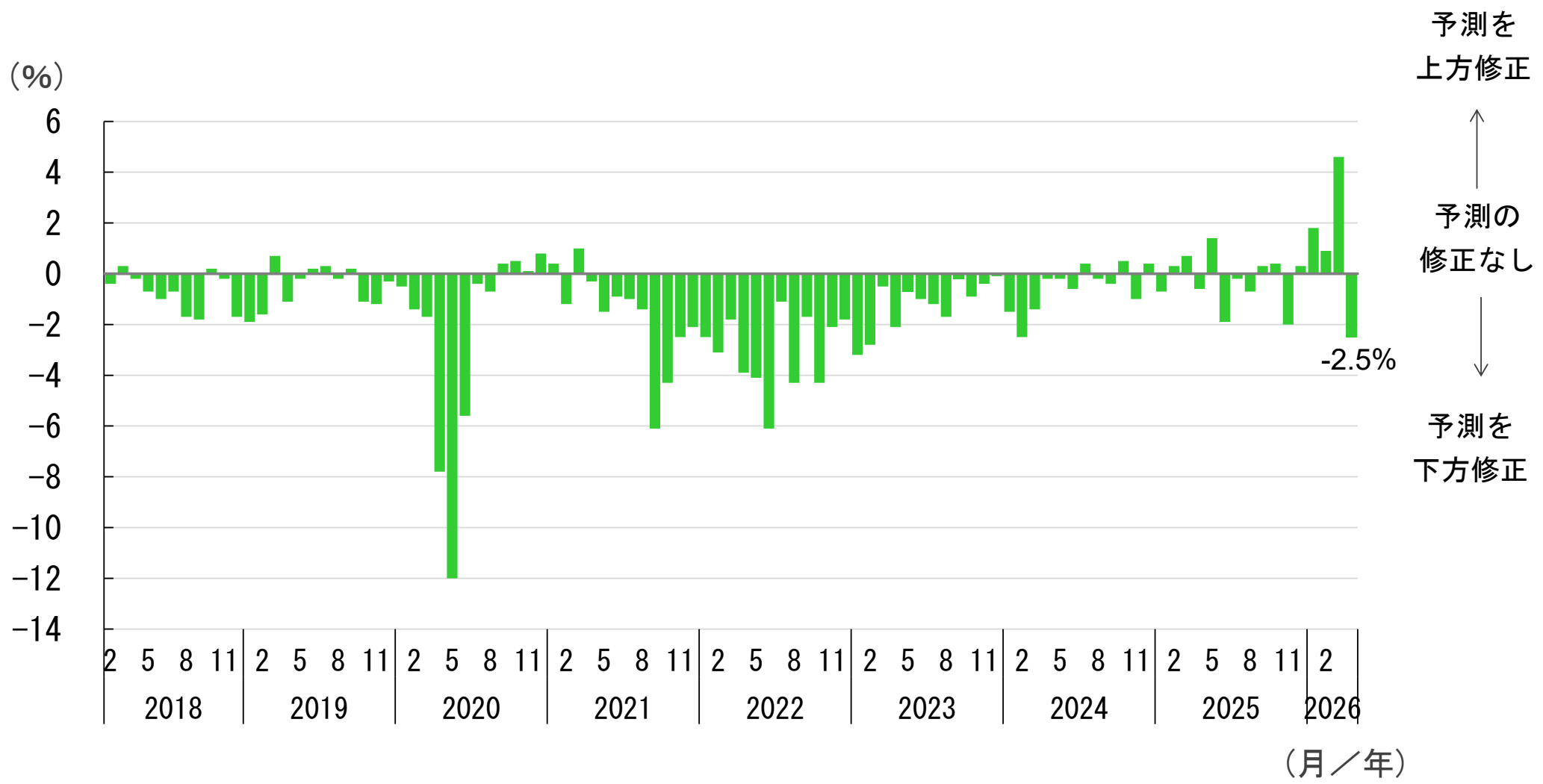
2026年5月生産計画の寄与順位表

上昇寄与業種		低下寄与業種		横ばいの業種	
業種名	計画前月比	業種名	計画前月比	業種名	計画前月比
輸送機械工業	4.6%	化学工業	-2.8%	—	—
電気・情報通信機械工業	2.7%	汎用・業務用機械工業	-2.5%		
金属製品工業	5.4%	その他	-2.4%		
電子部品・デバイス工業	1.3%	パルプ・紙・紙加工品工業	-3.9%		
鉄鋼・非鉄金属工業	2.4%	生産用機械工業	-0.5%		
石油製品工業	3.7%				

(注) 業種の並びは、寄与（影響度）が大きい順。

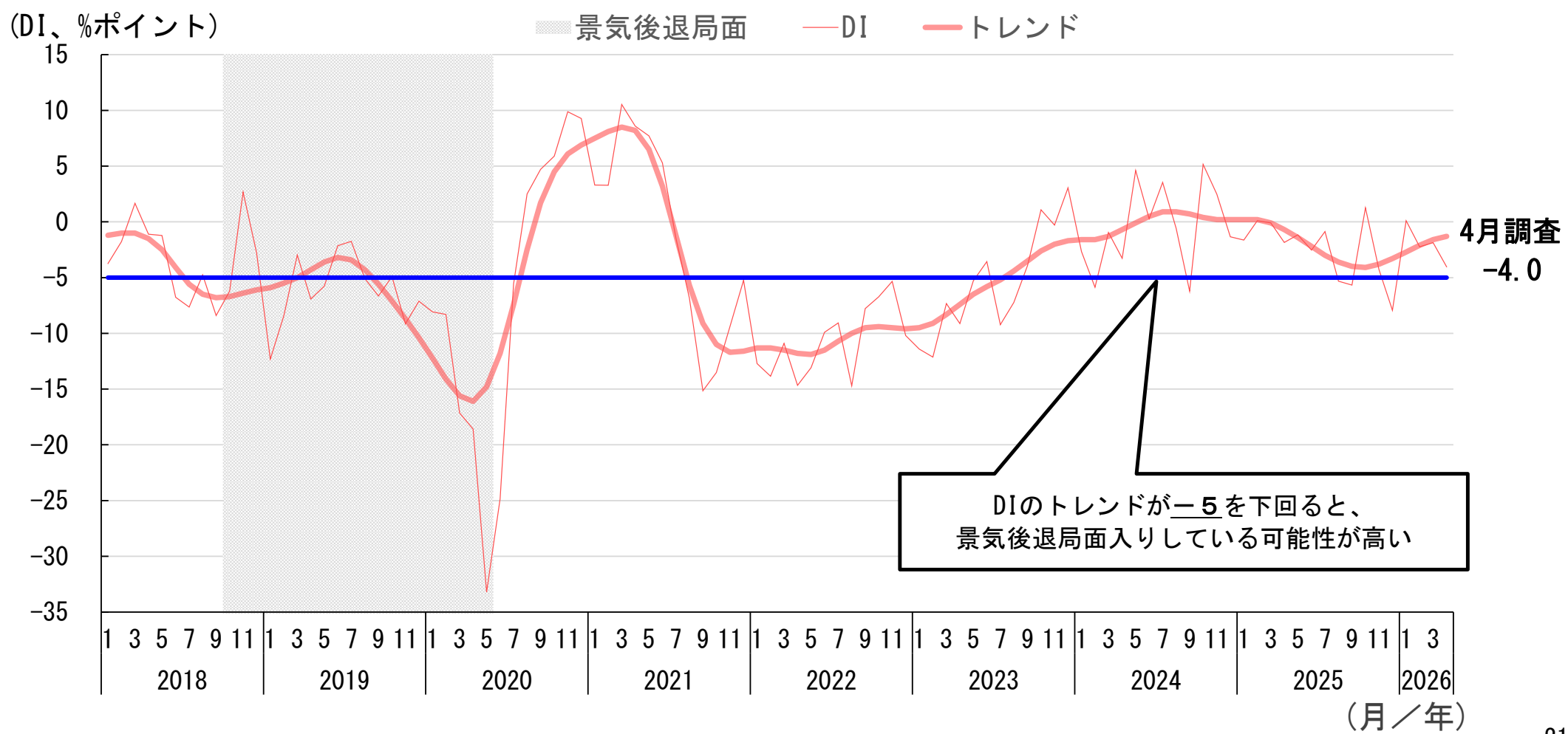
予測修正率の推移

- ・ 当月の生産計画が前回の生産計画からどの程度修正されたかを示したものが予測修正率となる。
- ・ 今回の調査では、予測修正率は-2.5%と低下。
- ・ 生産計画は5か月ぶりの下方修正となった。



企業の生産活動に対する姿勢（生産活動マインド指標（DI））

- ・生産計画を上方修正している企業の割合から下方修正している企業の割合を差し引くことで企業の生産活動マインドを指標（DI）化。
- ・DIのトレンドが-5を下回ると景気後退局面入りの可能性が高い。
- ・4月調査結果のDIは、-4.0（前月の-1.9から低下）、トレンドは-1.3と-5を上回る水準。



2026年1-3月期(速報)各指数の状況

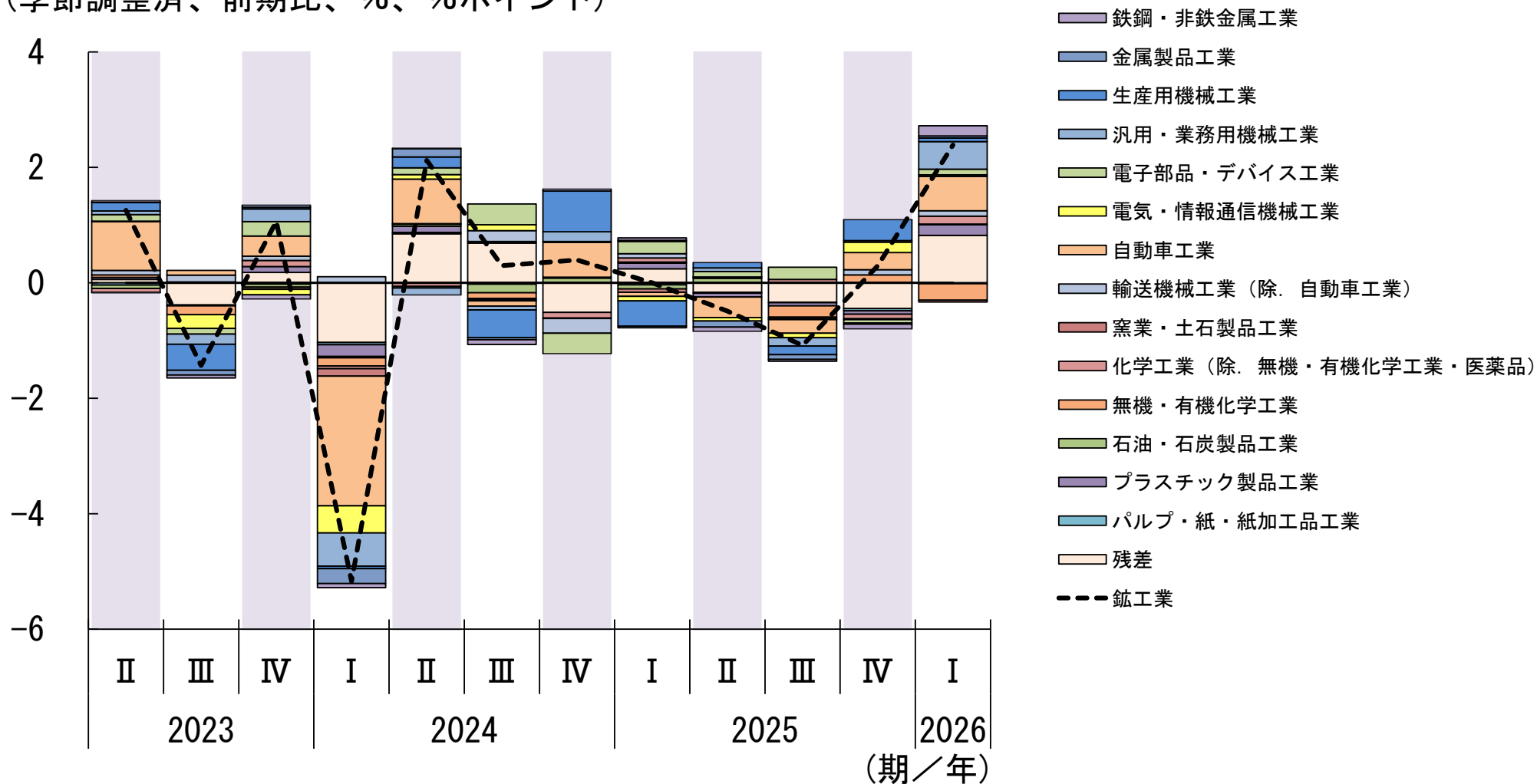
生産・出荷・在庫・在庫率指数

四半期	生産	出荷	在庫	在庫率
季調済指数	102.9	100.7	96.6	102.4
前期比	2.4%	1.2%	-2.0%	-2.7%
指数水準	2023IV 104.4以来 I 2018IV 115.5 II 2018 II 114.6 III 2018 I 114.4	2024 II 100.7以来 (超) 2023IV 103.6以来 I 2018 II 115.8 II 2018 I 115.0 III 2018IV 114.9	2021 II 95.4以来 ①2021 I 94.0 ②2020IV 94.7 ③2021 II 95.4	2022IV 99.3以来 ①2018 I, II 85.2 ②2018IV 86.1 ③2018 III, 2019 I 86.5
前期比の動き	2期連続+ (2025IV~当期)	2期連続+ (2025IV~当期)	2期連続- (2025IV~当期)	2期連続- (2025IV~当期)
前期比幅	2022 III 3.1%以来 I 2020 III 7.7% II 2020 IV 5.9% III 2022 III 3.1%	2024 II 3.3%以来 I 2020 III 8.2% II 2020 IV 5.5% III 2024 II 3.3%	2025 II -2.0%以来 (超) 2020 IV -2.1%以来 ①2020 II -4.0% ②2020 III -3.4% ③2020 IV -2.1%	2021 I -4.7%以来 ①2020 III -12.8% ②2020 IV -7.9% ③2021 I -4.7%
前年同期比(原指数)	1.2%(101.8)	1.1%(100.5)	-4.9%(94.1)	-3.3%(104.0)
前年同期比の動き	4期ぶり+ (2025 I 以来)	4期ぶり+ (2025 I 以来)	10期連続- (2023IV~当期)	2期連続- (2025IV~当期)
前年同期比幅	2022 III 4.0%以来 I 2021 II 18.4% II 2021 III 5.8% III 2022 III 4.0%	2022 III 4.1%以来 I 2021 II 18.3% II 2022 III 4.1% III 2021 III 3.5%	2021 I -9.7%以来 ①2021 I -9.7% ②2020 IV -8.3% ③2020 III -6.0%	2021 III -8.5%以来 ①2021 II -23.3% ②2021 III -8.5% ③2021 I -7.9%

鋳工業生産指数前期比 業種別の影響度合い

・2026年1-3月期の生産指数は、無機・有機化学工業などが低下したものの、自動車工業などが上昇したため、前期比2.4%の上昇。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)



(注) 「残差」は、鋳工業生産全体の変動から主要14業種の影響度を差し引いたものである。

2025年度(速報)各指数の状況
生産・出荷・在庫・在庫率指数

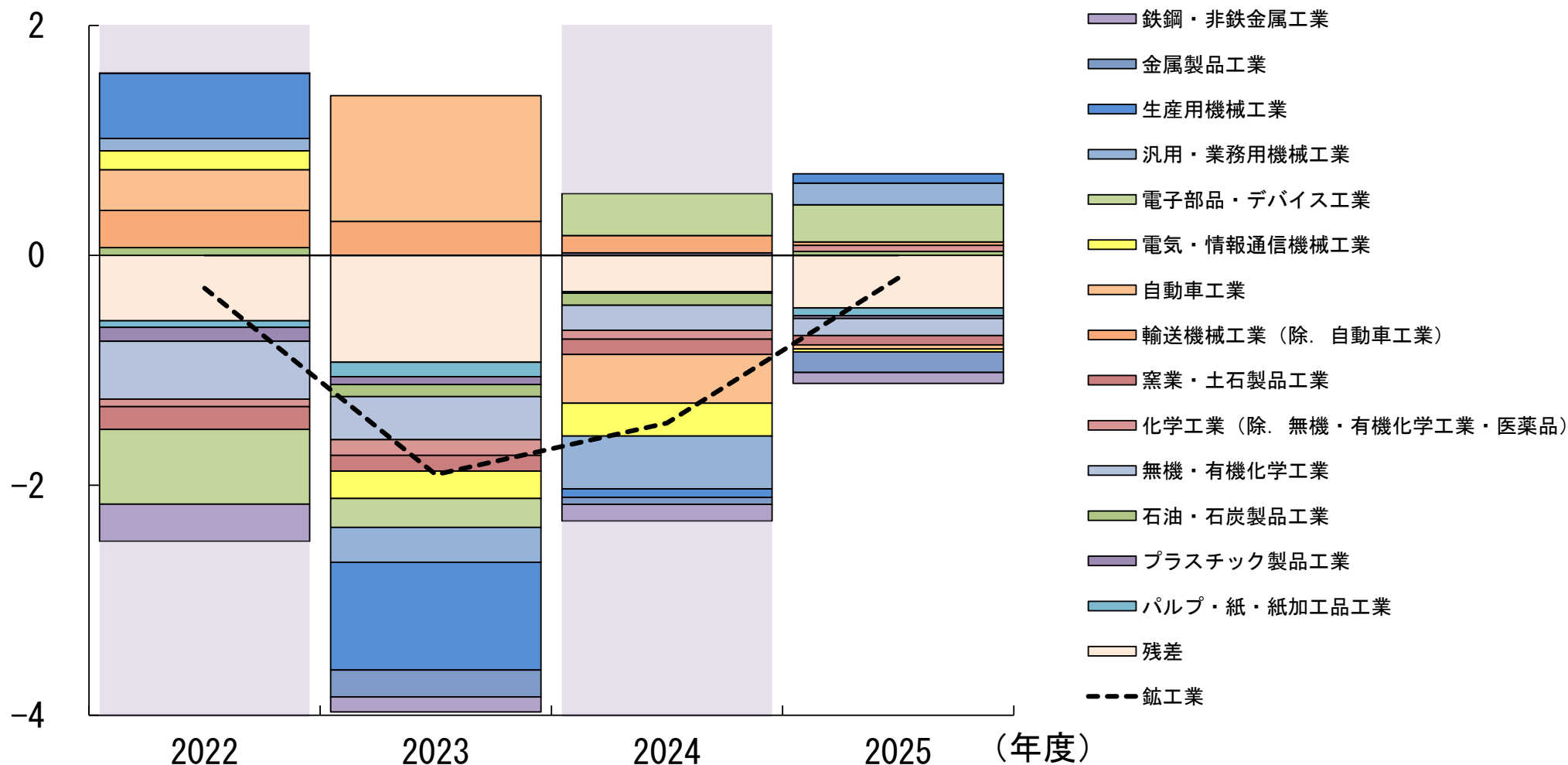
年度	生産	出荷	在庫	在庫率
原指数	101.2	99.8	94.1	105.3
前年度比	-0.2%	-0.2%	-4.9%	-1.0%
指数水準	2020 99.7以来 ①2020 99.7 ②2025 101.2 ③2024 101.4	2020 99.7以来 ①2020 99.7 ②2025 99.8 ③2024 100.0	2020 91.2以来 ①2020 91.2 ②2025 94.1 ③2021 98.4	2023 104.8以来 ①2018 85.9 ②2019, 2021 91.7 ③2020 98.1
前年度比の動き	4年度連続— (2022～当年度)	4年度連続— (2022～当年度)	3年度連続— (2023～当年度)	4年度ぶり— (2021以来)
前年度比幅	2024 -1.5%以来 ①2020 -9.5% ②2019 -3.5% ③2023 -1.9%	2024 -2.0%以来 ①2020 -9.7% ②2019 -3.5% ③2024 -2.0%	2020 -9.7%以来 ①2020 -9.7% ②2025 -4.9% ③2023 -1.0%	2021 -6.5%以来 ①2021 -6.5% ②2025 -1.0% —

1) ①～③は2020年基準における最小値から下位3位までの数値

鉱工業生産指数前年度比 業種別の影響度合い

・2025年度の生産指数は、電子部品・デバイス工業などが上昇したものの、金属製品工業などが低下したため、前年度比-0.2%と低下。

(前年度比、%、%ポイント)



(注) 「残差」は、鉱工業生産全体の変動から主要14業種の影響度を差し引いたものである。